

資料1

学 校 視 察 報 告

令和6年2月28日

青森県立高等学校魅力づくり検討会議

目次

1	視察の概要	1
2	地区別概要	
(1)	東青地区	2
	・青森高等学校	
	・青森商業高等学校	
	・北斗高等学校	
(2)	西北地区	5
	・鱒ヶ沢高等学校	
	・五所川原農林高等学校	
(3)	中南地区	7
	・弘前実業高等学校	
	・黒石高等学校	
(4)	上北地区	9
	・三本木高等学校	
	・十和田工業高等学校	
(5)	下北地区	11
	・田名部高等学校	
	・大湊高等学校	
(6)	三八地区	13
	・名久井農業高等学校	
	・八戸水産高等学校	

1 視察の概要

≪目的≫

県立高等学校の現状を把握し、理解を深めることにより、青森県立高等学校魅力づくり検討会議での議論の参考とする。

≪視察校の選定≫

視察校は、地域バランス、課程、学校規模、学科の種別、多様な制度の導入等を考慮して選定した。

≪視察校一覧≫

地区	学校名	課程	1学年の学級数	学 科	多様な制度の導入等
東青	青森高等学校	全日制	6学級	普通科	重点校
	青森商業高等学校	全日制	5学級	商業科、情報処理科	拠点校、くくり募集
	北斗高等学校	定時制	3学級 [※]	普通科	
通信制		—	普通科		
西北	鱒ヶ沢高等学校	全日制	1学級	普通科	地域校、全国からの生徒募集、コミュニティ・スクール
	五所川原農林高等学校	全日制	4学級	生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科	拠点校
中南	弘前実業高等学校	全日制	6学級	商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科	総合選択制
	黒石高等学校	全日制	5学級	普通科、情報デザイン科、看護科	専攻科、コミュニティ・スクール
上北	三本木高等学校	全日制	6学級	普通科	重点校、中高一貫教育
	十和田工業高等学校	全日制	4学級	機械・エネルギー科、電気科、電子科、建築科	
下北	田名部高等学校	全日制	5学級	普通科	重点校、全日制普通科単位制
	大湊高等学校	全日制	4学級	総合学科	
三八	名久井農業高等学校	全日制	2学級	生物生産科、環境システム科	全国からの生徒募集
	八戸水産高等学校	全日制	3学級	海洋生産科、水産食品科、水産工学科	専攻科、コミュニティ・スクール

※午前部、午後部、夜間部それぞれ1学級

2 地区別概要

(1) 東青地区

<視察校>

学校名	課程	1学年の学級数	学 科	多様な制度の導入等
青森高等学校	全日制	6学級	普通科	重点校
青森商業高等学校	全日制	5学級	商業科、情報処理科	拠点校、くくり募集
北斗高等学校	定時制	3学級	普通科	
	通信制	—	普通科	

青森高等学校

■視察実施日：令和5年10月5日（木）

■課程・学科等：全日制・普通科【重点校】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1 年	2 年	3 年	計
男 子	1 2 7	1 0 8	1 0 4	3 3 9
女 子	1 1 2	1 3 2	1 2 6	3 7 0
計	2 3 9	2 4 0	2 3 0	7 0 9

■学校の特色等

- ・ 綱領は「自律自啓」「誠実勤勉」「和協責任」であり、目指す生徒像として、「主体性と協調性をもって果敢に未来を切り拓く生徒」の育成を掲げている。
- ・ 卒業生の進路については、大学進学がほとんどであり、生徒が自身の可能性を広げ、進路目標を達成できるよう、教職員一丸となってサポートしている。
- ・ 平成26年度から令和3年度までSGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受けたほか、平成29年度からはSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、現在2期目（令和5～9年度）であり、充実した教育環境のもと、取組を進めている。
具体的には、SSHの指定により、探究活動に磨きをかけられる環境となり、文理融合の深い学びをとおして、海外での研修も行いながら、科学技術系のグローバル人材の育成に向けて取り組んでいる。また、SGHのレガシーとして、グローバル教育にも力を入れており、シンガポール研修（企業訪問や現地の生徒との交流）やオンラインによる海外交流などの活動をとおして、生徒の視野を広げている。
- ・ 探究型学習に力を入れており、果敢に未来を切り拓く生徒の育成に向けて、3年間で青高力（身に付ける10の資質・能力）を身に付けられるよう、日々の教育活動に取り組んでいる。また、探究学習部が企画・立案・実行を担い、探究学習委員会がその内容の審議を行っており、地域の企業・団体や大学等と連携しながら、全校体制で教育活動を展開している。
- ・ 重点校としての取組について、難関大学や医学部合格に向け、進学指導に重点を置いており、学力向上に向けたセミナーや合同学習会などを企画し、県内の高校のほか、北東北の高校とも連携しながら実施している。また、探究活動に関する教員のワークショップも行うなど、重点校としての役割を果たせるよう努めている。

- 部活動では、今年度、テニス部がシングルス・ダブルス・団体の3冠を達成し、インターハイに出場したほか、ボート部がインターハイに出場、陸上競技部や空手部が東北大会に出場するなど、輝かしい成績を収めている。文化部では、書道部、美術部、軽音楽部、文学部、将棋部が先日開催された全国高等学校総合文化祭に出場したほか、放送部も、NHK杯全国高校放送コンテストなどの全国大会に出場している。

授業視察



学校概要等の説明



青森商業高等学校

■視察実施日：令和5年12月20日（水）

■課程・学科等：全日制・商業科、情報処理科【拠点校、くくり募集】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	91	66	77	234
女子	109	89	93	291
計	200	155	170	525

■学校の特色等

- 学科に応じてマーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の実践的能力と、職業人としての高い倫理観、法令遵守の精神を身に付け、社会の期待に応えられる有為な人材の育成を目指している。
- 拠点校として、大学科商業を有する高校や商業科目を設定している高校に対し、検定の事務の集約や講習会、教員研修を実施しているほか、今年度は他の商業高校と合同で、台湾での研修を行った。
- 自転車部、卓球部等、様々な部活動で全国大会出場等の高い実績を挙げている。部活動加入率も高く、学習との両立もできている。
- くくり募集については、入学段階では全員が商業科に所属し、2年次から進路志望等に応じて学科・コースに分かれて学習する。同制度の導入の目的としては、入学後のミスマッチの解消であるが、一方で専門性を高める学習が2年生からとなってしまう課題もある。

授業視察



学校概要等の説明



北斗高等学校

■視察実施日：令和5年9月4日（月）

■課程：定時制・通信制

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

定時制	1年	2年	3年	4年	計
男子	47	38	40	31	156
女子	50	44	27	18	139
計	97	82	67	49	295

通信制	1年	2年	3年	計
男子	15	21	26	62
女子	25	32	45	102
計	40	53	71	164

■学校の特色等

- ・ 午前部・午後部・夜間部の3部制であり、単位制による定時制課程と通信制課程からなる定通単独校である。
- ・ 校訓である「自主 協和 研学」のもと、社会人としてしっかりと生きていく力を育むことを教育目標に掲げ、①生徒一人一人が自らの特性や適性を知り、自己肯定感・自己有用感を高めること、②他者との円滑な人間関係を築くためのコミュニケーション力を育むこと、③心身の健康と基礎学力・教養を身に付けることの3つを軸に教育活動を行っている。
- ・ 部活動では、今年度、陸上部、卓球部、バドミントン部、ソフトテニス部、柔道部、放送部が全国大会出場を果たした。過去には、全国大会で優勝や入賞という輝かしい成績を収めたこともある。
- ・ 多様な生徒が在籍している状況を踏まえ、生徒が安心して学校生活を送り、きめ細かな指導が受けられるよう、定時制課程では12学級を19クラス編制として展開している。
- ・ 6月末時点での出席率は93.2%であり、不登校経験者も本校への進学を機に登校できるようになっている。
- ・ 「北斗スタンダード」として、特別な支援を要する生徒を対象とした指導・支援を体系的に行っている（①全体の指導・支援、②個別の指導・支援、③ニーズに応じた指導・支援）。
- ・ 通級による指導を希望する生徒は年々増加している。
- ・ 通信制課程は最短3年での卒業が可能であり、74単位以上の修得のほか、3年間で60日以上の出校や3年間で30時間以上の特別活動への参加が条件となっている。

授業視察



(2) 西北地区

<視察校>

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
鱈ヶ沢高等学校	全日制	1学級	普通科	地域校、全国からの生徒募集、コミュニティ・スクール
五所川原農林 高等学校	全日制	4学級	生物生産科、森林科学科、 環境土木科、食品科学科	拠点校

鱈ヶ沢高等学校

■視察実施日：令和5年12月14日（木）

■課程・学科等：全日制・普通科【地域校、全国からの生徒募集、コミュニティ・スクール】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	7	6	1	14
女子	9	3	5	17
計	16	9	6	31

■学校の特色等

- ・ 令和5年度から地域校として配置され、入学者数確保に向けた取組を進めてきたこともあり、令和5年度の入学者数は、前年度に比べて7名増加した。
- ・ 1年生において、習熟度別授業を実施しており、数学は3クラス展開、英語は2クラス展開とし、小規模校ならではのきめ細かな指導を更に充実させている。2年生になると、就職コースと進学コースに分かれ、進路志望に応じた授業を展開している。
- ・ 令和5年度入学者選抜から全国からの生徒募集を実施しており、地域みらい留学にも参画している。生徒によるオンライン説明会を実施し、本校の魅力を全国の中学生に向けて発信しているほか、東京で開催された対面合同説明会では、本校に興味を持ってくれた中学生やその保護者等に本校の魅力をPRした。
- ・ 令和5年度から学校運営協議会を導入しており、多様な生徒に対する教育活動の地域連携などについて意見交換した。地域の方は非常に協力的で、円滑に進めることができている。
- ・ 鱈ヶ沢町や地元企業と連携協定を結ぶなど、産官学が一体となった取組を進め、鱈ヶ沢高校の存続や地域の活性化に向け尽力している。

授業視察



五所川原農林高等学校

■視察実施日：令和5年12月14日（木）

■課程・学科等：全日制・生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科【拠点校】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	45	51	65	161
女子	48	38	51	137
計	93	89	116	298

■学校の特色等

- ・ 目指すべき学校の姿として、「Waku Waku Challenge! Smile 五農」を掲げており、「生徒のワクワクが止まらない学校」「生徒が主役の学校」「保護者のワクワクに応える学校」「地域のワクワクを盛り上げる学校」「このワクワクをとおして伝統を継承し、更に進化して世界をリードする農業専門高校」の実現に向けて取り組んでいる。
- ・ グローバル化が進む未来の農林業と関連産業を担う人材育成のため、農業と林業の2つの国際認証（農業：GLOBAL G. A. P. 認証 / 林業：FSC 認証）の取得に取り組んでいる。平成27年に日本の高校で初めて、GLOBAL G. A. P. 認証をリンゴで取得し、その後、コメ、メロン、ジャガイモ、タマネギの認証を取得するとともに、平成30年には、FSC 森林管理認証を取得した。
- ・ リンゴの輸出・販売に関する海外研修の実施や、ANAの国際線ファーストクラスの機内食としての米の提供、岩塚製菓の製品「味しらべ」の原材料としての米の提供を行うなど、企業と連携した取組を行っている。また、「農家所得の向上」や「高齢化・後継者不足」といった地域が抱える問題の解決に向け、企業と連携しながら、ロボット技術やICT等の先端技術の活用による新たな農業の学習に取り組んでいるほか、生徒が育てた野菜の苗を販売する「五農市」の開催や、地域の子どもたちの農業体験の実施など、地域との交流も行っている。
- ・ 部活動では、相撲部がR4全国高等学校相撲選抜大会で優勝、今年度は農業クラブにおいて、フラワーアレンジメント競技会（全国大会）で文部科学大臣賞を、プロジェクト発表分野Ⅲ類（全国大会）で優秀賞を受賞するなど、輝かしい成績を収めている。
- ・ 拠点校として、GLOBAL G. A. P. 認証取得に関する勉強会の開催や、企業と連携したスマート農業に関する講習会の実施など、他校の生徒とも交流しながら、専門的な知識・技能を身に付けられるよう取り組んでいる。
- ・ 令和5年3月卒業生の進路状況は、就職と進学がほぼ半々となっている。営農大学校への進学や農業や食品関連の企業への就職のほか、技術職の公務員となる生徒も多い。

生徒による課題研究等の発表の様子



学校概要等の説明



(3) 中南地区

<視察校>

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
弘前実業高等学校	全日制	6学級	商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科	総合選択制
黒石高等学校	全日制	5学級	普通科、情報デザイン科、看護科	専攻科、コミュニティ・スクール

弘前実業高等学校

■視察実施日：令和5年12月12日（火）

■課程・学科等：全日制・商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科【総合選択制】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	86	88	78	252
女子	154	147	156	457
計	240	235	234	709

■学校の特徴等

- ・ 商業、家庭、体育に関する学科を有し、専門的な学習や実践的な活動をとおして、人間性豊かで、社会に貢献できる人材の育成を目的とした男女共学の総合専門高等学校である。各学科において、それぞれの特色を十分に発揮するとともに、各学科の連携による幅広い視野を育成し、部活動や資格取得等に励み、「歩歩清風」を礎としながら多様性を認め協働する力を培い、生徒一人一人のあらゆる可能性を陶冶させ、生涯を通じて「生命（いのち）と価値（ねうち）」を探求する人間の育成を目指している。
- ・ 商業科では、課題研究においてSDGsの取組としてりんごの剪定枝を利用した和紙による商品開発にチャレンジしたり、名刺やカレンダーの作成を行っている。
- ・ 家庭科学科では、津軽の伝統の味を継承している「津軽あかつきの会」の協力を得て郷土料理の継承に取り組んでいる。全国うまいもの甲子園では特別賞を受賞した。
- ・ 服飾デザイン科におけるファッション甲子園全国大会での入賞や、スポーツ科学科におけるトレッキング実習をはじめとする様々な校外学習など、実業高校ならではの活動が主体的に行われている。
- ・ 総合選択制の導入により、各学科における横断的な学びが可能となっている。科目選択の幅が広がり、更に幅広い知識や柔軟な発想が身に付いている。

授業視察



実習施設視察



黒石高等学校

■視察実施日：令和5年12月12日（火）

■課程・学科等：全日制・普通科、情報デザイン科、看護科【専攻科、コミュニティ・スクール】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

全日制	1年	2年	3年	計
男子	43	50	60	153
女子	111	129	116	356
計	154	179	176	509

専攻科	1年	2年	計
男子	1	4	5
女子	40	34	74
計	41	38	79

■学校の特色等

- ・ 青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画に基づき、中南地区統合校として黒石高校と黒石商業高校を統合し、令和2年度に新たな黒石高校として開校した。
- ・ 普通科では、統合前は2年生になる段階で文系と理系に分かれていたが、統合後は多様な生徒に対応するため「スキルアップ型」を設置し、家庭・福祉・ビジネスの3つの専門コースに分かれている。ビジネスコースは商業や情報の科目を、家庭コースは家庭科の科目を多く履修することができ、それぞれの専門分野での資格取得を目指すことができる。また、福祉コースを修了すると、県の介護員研修事業者として認定されている、介護職員初任者研修の修了証が得られる。
- ・ 県内唯一の学科である情報デザイン科では、商業系の特性を生かしマーケティング部門における情報デザインを学んでおり、地域・関係団体と連携した活動を行っている。
- ・ 県立学校としては北東北唯一となる看護科では、5年一貫教育により、5年修了時には准看護師ではなく国家試験（正看護師）を受けられるカリキュラムとなっている。高校卒業後、ほとんどの生徒が専攻科へ進み、専攻科卒業後は看護師として県内外で就職するほか、保健師・助産師学校等へ進学したり、養護教諭等の教員免許取得のため4年制大学へ編入する生徒もいる。
- ・ 学校運営協議会について、モデル校からスタートし今年度で3年目となる。メンバーは校長を含めて8名であり、様々な意見をいただけて助かっている。

授業視察



実習施設視察



(4) 上北地区

<視察校>

学校名	課程	1学年の学級数	学 科	多様な制度の導入等
三本木高等学校	全日制	6学級	普通科	重点校、中高一貫教育
十和田工業高等学校	全日制	4学級	機械・エネルギー科、電気科、電子科、建築科	

三本木高等学校

■視察実施日：令和5年12月18日（月）

■課程・学科等：全日制・普通科【重点校、中高一貫教育】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	118	88	93	299
女子	109	108	118	335
計	227	196	211	634

■学校の特色等

- ・ 平成19年に県内初の併設型中高一貫教育校となった。併設型中高一貫教育校として、様々な夢や志を持った仲間との学び合いや異年齢交流をとおして、生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、質の高い課題解決型の学習を推進し、教科等横断的な視点を育み、豊かな心を持った、グローバル社会の発展を担う人材の育成を目指している。
- ・ 三本木高校の特色ある取組として、東京学芸大学の名誉教授の指導のもと、4技能「聞く」「読む」「話す」「書く」を統合した活動により、英語のより良い定着を図り、受験にも対応した高い英語能力を養成する「三本木メソッド」という取組を行っている。また、「普通コース」と「GSコース」を設置し、GSコースでは台湾を訪問し、学校交流を行ったり、探究活動により未来を切り拓く実践力を身に付けたりしている。なお、探究活動の成果は、毎年、青森県高等学校理数系課題研究発表会で発表している。
- ・ 附属中学校の特色は、理数教育と言語教育（英語）に力を入れていることであり、数学検定や英語検定の合格者も多数出ている。また、オンラインによる国際交流や弁当の日による食育を行っているほか、森林環境学習として、ブナの観察などを行っており、こうした学習が高校での探究活動や課題研究へと繋がっている。
- ・ 部活動では、ハンドボール部がインターハイに出場し、附属中学校においてもハンドボール部が東北大会へ出場している。

授業視察



学校概要等の説明



十和田工業高等学校

■視察実施日：令和5年12月18日（月）

■課程・学科等：全日制・機械・エネルギー科、電気科、電子科、建築科

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	118	98	109	325
女子	13	8	14	35
計	131	106	123	360

■学校の特色等

- ・ 外部機関と連携・協働した工業教育とキャリア教育を推進し、産業社会の変化に対応できる専門的な知識・技術や職業観・倫理観を身に付けるとともに、ものづくりをとおした地域との交流をとおして、責任感と柔軟性を育み、豊かな心を持った、社会の健全で持続的な発展を担う人材の育成を目指している。
- ・ 各学科の頭文字（機械・エネルギー科（Mechanical Engineering）の「M」、建築科（Architecture）の「A」、電子科（Digital）の「D」、電気科（Electrical Engineering）の「E」）を取って並べ替えると、「MADE」となるが、ものづくりが好きで、ものを生み出す生徒を世の中に送り出すといった意味で「MADE in TOWAKO」をテーマにしている。
- ・ ものづくりコンテストの東北大会において、電気科と建築科の生徒が輝かしい成績を収めている。
- ・ 近隣小学校の高学年の児童を対象に、ものづくり体験教室を実施している。
- ・ 3年生では課題研究の時間を利用して、グループ毎に設定した研究テーマについて調査・研究したり、ものづくりに取り組んだりし、学校で学んだ知識や技能を活用して探究活動に取り組んでいる。1月にはその集大成として学習成果発表会を開催し、それぞれのグループが作成したプレゼンテーション資料を用いながら研究結果について発表している。

授業視察



実習施設視察



(5) 下北地区

<視察校>

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
田名部高等学校	全日制	5学級	普通科	重点校、全日制普通科単位制
大湊高等学校	全日制	4学級	総合学科	

田名部高等学校

■視察実施日：令和5年12月19日（火）

■課程・学科等：全日制・普通科【重点校、全日制普通科単位制】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	70	81	87	238
女子	96	102	109	307
計	166	183	196	545

■学校の特色等

- ・ 全日制普通科単位制の特長を生かし、進路志望に応じた科目を選択できるように教育課程を編成しており、生徒の進路志望に応じて、3年次で地歴2科目を選択することができるようにしている。
- ・ 4年制大学への進学を希望する生徒が多く、進学率は8割前後となっている。令和4年度は、7年ぶりに東北大学への合格者や本校初の東京工業大学への合格者を輩出したほか、横浜国立大学や新潟大学、金沢大学のような難関大学への合格者も輩出している。また、年度により増減はあるものの、公務員を含め就職を希望する生徒が一定数いるため、就職希望者に対しても手厚い指導を行っている。
- ・ SDGsプロジェクトとして、生徒が市内の保育園や小・中学校等を訪問し、衣類を収集し、世界中の難民の子どもたちに衣類を届ける取組を実施した。
- ・ 重点校の取組としては、本校の英語指導法「TANABU Model」の紹介や改善を行う「英語指導力向上事業研究協議会」や、盛岡の公務員専門学校講師による「公務員セミナー」、各界で活躍している職業人を招聘し講話をしてもらう「THEプロフェッショナル（職業人による講演会）」、下北地区の教員を対象にした「教員対象研修会」や「3年次課題研究発表会」を実施している。
- ・ 「文武一同」をモットーに、勉強だけでなく、部活動にも精一杯取り組んでいる。フェンシング部、ボート部、陸上競技部は、毎年のようにインターハイに出場している。

授業視察



学校概要等の説明



大湊高等学校

■視察実施日：令和5年12月19日（火）

■課程・学科等：全日制・総合学科

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	44	53	70	167
女子	73	98	75	246
計	117	151	145	413

■学校の特色等

- ・ 総合学科は、普通科と専門学科の両方の要素を併せ持つ第3の学科であり、普通科の学びに加え、2年次の系列選択により、自分の興味・関心のある科目を選択することができる。
- ・ 進路実績としては、大学進学が3割程度、専門学校への進学が3割程度、就職が3割程度となっている。
- ・ 生徒の多様化が進んでいることから、専門スタッフやむつ市役所等の外部人材の活用や、文化庁の事業を利用したコミュニケーションスキルの育成、個別面談の強化、魅力的な授業の構築等を行っている。
- ・ 主体性の育成として、下北の起業家や農業生産者等に生徒がインタビューする「下北HEROES」や、避難所や災害弱者等の様々な課題について研究する「防災への取組」、ボランティアやインターンシップなどに自由に参加する「外まな部(外で、外から学ぶ部)」を実施している。
- ・ 教員の魅力化を図るために、お互いの授業を見る「互見授業」や、研修等に参加した教員が他の教員に研修等の報告をする「ミニ研修」、HR経営や生徒理解など教員が必要だと感じる知識等について講師を招聘する「校内研修」を実施している。
- ・ 制服は年々バージョンアップしており、生徒は気温や体調に合わせて制服を選んでいる。女子生徒のスラックスは今年度から導入した。
- ・ 生徒による学食メニューの改善や壁紙等のインテリアを行うなど、学食の更なる魅力化を図る「学食魅力化プロジェクト」を実施している。

授業視察



(6) 三八地区

<視察校>

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
名久井農業高等学校	全日制	2学級	生物生産科、環境システム科	全国からの生徒募集
八戸水産高等学校	全日制	3学級	海洋生産科、水産食品科、水産工学科	専攻科、コミュニティ・スクール

名久井農業高等学校

■視察実施日：令和5年12月21日（木）

■課程・学科等：全日制・生物生産科、環境システム科【全国からの生徒募集】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

[単位：人]

	1 年	2 年	3 年	計
男 子	29	45	33	107
女 子	17	14	17	48
計	46	59	50	155

■学校の特色等

- ・ 教育目標は、「土に親しみ広く生物を愛し、社会の向上・発展に寄与しようとする資質と能力を養い、人間性豊かな心身ともにたくましい人間を育てる」としており、農業教育や多くの体験活動で心身を鍛え、地域に貢献できる人材の育成を目指している。
- ・ 農業科目「課題研究」を2学年で4単位、3学年で4単位の計8単位としており、研究発表コンテストで多くの最優秀賞を受賞するなど、大きな成果を上げている。
- ・ 生徒の興味・関心を引き出し、農業経営感覚を磨くことを目的に、6科目の学校設定科目を用意し、特色ある教育活動を展開している。
- ・ 駅での花植え活動や地元農家での農作業支援活動、園児や小・中学生との食農交流体験や出前授業を行うなど、地域と連携した特色ある教育活動を実施している。このほか、次世代を担う子どもたちの人材育成を目的に、地元の小・中学生が地域の農業や食、環境に目を向けるきっかけづくりとして、12年前から学校主催で応募型研究コンテストを実施している。
- ・ 京都大学との「雪国向けLED信号機」の共同開発や、京都大学の教授による講話、弘前大学との「糠塚きゅうり」の共同研究など、大学と連携した取組を行っている。また、三沢市ソーラーシステムメンテナンス事業協同組合との水耕栽培共同研究を行うなど、企業と連携した取組も行っている。
- ・ 全国からの生徒募集を令和5年度入学者選抜から実施している。

生徒による研究発表の様子



実習施設視察



八戸水産高等学校

■視察実施日：令和5年12月21日（木）

■課程・学科等：全日制・海洋生産科、水産食品科、水産工学科
【専攻科、コミュニティ・スクール】

■在籍生徒数（令和5年5月1日現在） [単位：人]

全日制	1年	2年	3年	計
男子	27	46	54	127
女子	8	17	12	37
計	35	63	66	164

専攻科	1年	2年	計
男子	15	12	27
女子	0	1	1
計	15	13	28

■学校の特色等

- ・ 県内唯一の水産高校であり、「豊かな人間性と人格の形成を図り、有為な社会人、明るくたくましい水産人を育成する」ことを学校目標に掲げている。卒業生は国内外の水産業界、海運業界で幅広く活躍している。
- ・ 海洋生産科は、船舶運航や漁業について学習しており、2年生から航海システムコースと漁業システムコースに分かれる。また、水産食品科は食品の加工・製造・流通・販売・消費について、水産工学科は、船舶機関の運転管理や機械について、それぞれ学習している。
- ・ 海洋生産科と水産工学科の2年生は、約70日間にわたる大型実習船「青森丸」の長期乗船実習を行っている。
- ・ 専攻科は、船長や機関長の育成を目指して3級海技士等の資格取得に取り組んでおり、修了後には全員が船舶や漁業に関する仕事に就職している。
- ・ 令和5年度から学校運営協議会を導入しており、研究機関等との連携が図られ、アワビやフジツボなど最新の養殖技術を学ぶ見学会等の機会が得られた。
- ・ 八戸水産アカデミー事業により、八戸水産事務所や大学等との連携が強化され、担い手育成の講演会や国際航海体験発表会等を実施している。

実習施設視察

